

2011年度 国際薬膳師(士)・国際薬膳調理師 資格認定試験合格者名簿 (敬称略)

国際薬膳師・国際薬膳調理師 (10名)

東京都 竹内潤子 湯澤加代子 長江恵美子 岡里いづみ 鶴井恵実
 神奈川県 原田智子 岩田暖子 埼玉県 荒川志緒 池田紀子 愛知県 酒井耶代巳

国際薬膳師 (23名)

東京都 福室愛子 坂田晶子 高橋玲子 須釜貴美子 内田文子 リー・ウニニー 岡尾知子 前田絵里子
 野口慎子 笹田晶子 鈴木理恵子
 神奈川県 尾崎和泉 高田和子 松田幸子 埼玉県 高橋栄夫 高橋雅枝 千葉県 椎名生美
 福島県 中野恵利子 長野県 末永寧子 岐阜県 荘加ふみ子 田辺由美
 大阪府 福田和愛 大分県 高橋明子

Congratulations!!

2011年度薬膳の旅 ～河南研修旅行記～ 【連載 2回目(全4回)】

2011年5月29日(日)から6月4日(土)までの7日間に行われた、医聖と尊称されている張仲景の故郷、河南省への研修旅行。各参加者から募った研修旅行レポートを連載にて掲載しております。

張仲景の故郷を訪ねて

通信卒業生 杉崎 聖子



張仲景像

ご紹介しますが、その内容を簡単にですが、その内容を

「医聖祠」と書かれた大門が私達を迎えてくれました。この言葉を見て、張仲景は神仏に匹敵する偉大な人物だと実感しました。入って右手に、長い廊下があり、そこには石碑が何枚も貼られていました。一枚一枚が、石を丁寧に削ってできたもので、張仲景が医聖と呼ばれるまでになったその半生が描かれており、それは興味深いものでした。

張仲景の故郷、南陽に着いたのは、中国時間で五月三十日午前二時半頃でした。一夜明け、待ちに待った南陽見学一日目にふさわしく、日が昇った中国本土と初対面の感動の中、張仲景廟を訪れました。



石碑が陳列されている廊下

- 農民が多くなる時代、貧富の差が激しかった頃、疫病が流行った。それは傷寒病で七割の人が亡くなった。
- そのことに心を痛め、医学を学び始めた。
- 夜中まで一生懸命勉強した。
- それを見た偉い人物は、将来、張仲景は必ずやいい医者になると言ったという。
- お坊さんに付いて、薬の研究もした。
- 弁証論治を始める。
- とても親孝行で道徳心があり、素晴らしい人。
- 王様から貧しい人まで、病気の治療を行った。

驚きました。その石が積み上げられてあるお墓に手を合わせながら、薬膳をこれから学んでいくにあたって、張仲景が築いた土台をしっかりと意識しながら、日々励んでいきたいと思いました。

この廟の中心部に、張仲景のお墓がありました。その場所に土葬され眠っているの場所と聞き、本当に驚きました。以上を聞いて、張仲景がたくさん研究を重ね、人々を救い、その教えが脈々と私たちに受け継がれてきているのだなあと実感しました。



仲景門の前で